

子曰く、政を為すに徳を以てすれば、譬えば北辰の其の所に居て衆星の之に共うが如し。

【大体の意味内容】先生はおっしゃった。「政治を行う場合に、リーダーが仁徳をもって、人民をいつくしみ、彼らの幸せを何よりも重んじるようにして行動すれば、たとえば北極星が自分の居場所にとどまって動かなくても、多くの星々が北極星の周りに集い、決して離れることなく巡りゆくような状態となるのである。」

クラスの中でも、休み時間になるとなんとなく周りに人が集まる、といった人気者がいますね。そういった人が持っている、あるいは自分で努力して持つようになった仁徳とはどのようなものか、なかなか難しい問題です。

ただやさしいだけでもないし、気が強だけでもなく、面白おかしいだけでもない。

またある場所では人気者だった人がほかの場面ではそうでもなかったり、逆に無愛想で人を寄せ付けない感じの人が、別の場面では妙に人気があったりすることもあります。

一つの在り方がどんな場合でも同じように受け入れられるわけではないのが難しいのですが、わたしはこの北極星のたとえを次のように解釈しています。

それは、

**中心へと排除されることの覚悟が、リーダーには必要なのだ。**

強い権力を以て好き勝手にふるまったり、他人を従わせたりするのはなく、誰よりも苦勞し努力し、重い責任を背負い、それでいて孤独で、多くの人が幸せに生きている中で、一人その輪からははずれている。それを慈憑として受け入れ、むしろ進んでいけるところになるような気概が、本場の「徳」なのではないか、そんな風に、このくだりは読めました。